

持続可能な衣生活の現状調査

増田研究室（アパレルメディア分野）A20AB068 杉浦璃子

1. 緒言

近年、ファストファッションの台頭により、流行を意識した装いを手軽に購入出来るようになった。気軽に購入できる衣服は、また手軽に廃棄されている¹⁾。また、ディスポーザブルカルチャー、いわゆる製品の寿命が短くなり、使い捨てられるような文化の普及²⁾、オンラインショッピングの普及が進んでいる。本研究では、社会とともに変化する衣服の持続性及び購買行動について、現代の消費者の持つ価値観を抽出し、どのように衣服選択・知識の活用をしているのかを明らかにすることとした。

2. 事前調査

衣服の賢い消費量を増やすために皆さんが行っている具体的な手法や施策について 12 項目のアンケート（表1を参照）を実施した。調査項目は、家庭科で得た知識や SDGs に関する質問とした。

「賢い衣服選択」=長く着用できるもの、自分に合ったデザイン、サイズ感、「賢くない（好ましくない）衣服選択」=安いという理由で大量購入、普段使いしにくい、サイズがあわないという回答の傾向がみられた。

3. 本調査

調査対象者：男女（男性 12 名、女性 82 名）計 100 名

調査方法：Google フォームを用いたアンケート調査

調査期間：2023 年 12 月上旬～12 月中旬

調査項目：①「性別・年齢」（2 項目 1-1～1-2）

②「衣服の持続可能性について」（5 項目 1-3～1-7）

③「服を長く着るために重要視する点について」（8 項目 1-8～1-15）

④「自分に似合う服を考えて購入しているか」（1 項目 1-16）

⑤「服を着る事で自分をどう見せたいか」（9 項目 1-17～1-25）

⑥「長持ちする衣服について」（2 項目 1-26～1-27）

⑦「長持ちする衣服の期間について」（1 項目 1-28）

⑧「質の高い服の評価について」（4 項目 1-29～1-32）

⑨「衣服の実用性について」（4 項目 1-33～1-36）

計 36 項目で 5 段階評価と SD 法によるアンケート調査

分析方法：単純集計、因子分析、クラスタ分析

4. 結果及び考察

（1）調査項目の平均値（mean）と標準偏差（SD）による検討

性別ごとに分け、各項目における全体と性別別、性別間での差の検定を行いました。ここでは、男女共にサイズやデザイン、似合い度が自分に合っているかを考え衣服選択する傾向があった。また、男女間の大きな違いとして、女性は価格よりもデザイン性、男性はデザイン性よりも価格を質の高い服の評価としていることが明らかとなった。

表3 全項目の平均値・標準偏差

番号	項目	平均値	標準偏差
①	1-1 年齢		
	1-2 性別		
②	1-3 衣服の持続可能性について意識する	2.28	1.272
	1-4 環境にやさしい素材の衣服について意識する	1.95	1.077
	1-5 リサイクル可能な製品について意識する	2.38	1.196
	1-6 フェアトレードや労働条件を意識する	2.06	1.099
	1-7 環境への影響を最小限に抑える意識する	2.01	1.141
③	1-8 服を長く着るために品質を重視する	3.68	1.278
	1-9 服を長く着るために形を重視する	3.39	1.254
	1-10 服を長く着るために素材を重視する	3.7	1.219
	1-11 服を長く着るために個性を重視する	2.98	1.363
	1-12 服を長く着るためにブランドを重視する	3.72	1.181
	1-13 服を長く着るために似合い度を重視する	4.12	1.085
	1-14 服を長く着るために価格を重視する	3.76	1.102
	1-15 服を長く着るために色を重視する	4.13	1.116
④	1-16 自分に似合う服を購入する	4.01	1.141
⑤	1-17 男性的な服を好み女性的な服を好む	3.52	1.267
	1-18 地味な服を好み派手な服を好む	2.92	1.228
	1-19 子供っぽい服を好み大人っぽい服を好む	3.74	0.97
	1-20 寒色の服を好み暖色の服を好む	3.13	1.186
	1-21 暗い服を好み明るい服を好む	3.14	1.341
	1-22 カジュアルな服を好みフォーマルな服を好む	2.93	1.312
	1-23 くすんだ服を好み鮮やかな服を好む	3.12	1.274
	1-24 かわいい服を好みやわらかい服を好む	3.36	1.267
	1-25 下品な服を好み上品な服を好む	4.18	0.833
⑥	1-26 長持ちする衣服の素材について知識がある	2.55	1.242
	1-27 長持ちする衣服の製法について知識がある	2.24	1.232
⑦	1-28 どのくらいの期間で「長持ち」といえるか	3.77	0.962
⑧	1-29 質の高い服に「素材」は重要か	4.11	1.081
	1-30 質の高い服に「価格」は重要か	3.43	1.19
	1-31 質の高い服に「機能性」は重要か	4.03	1.114
	1-32 質の高い服に「デザイン性」は重要か	3.8	1.025
⑨	1-33 衣服の実用性を意識している	3.45	1.175
	1-34 衣服のコストパフォーマンスを意識している	3.46	1.184
	1-35 トレンドの流れやすさ	3.04	1.392
	1-36 自分自身にあった衣服を意識して購入する	4.06	1.013

□→ 3.5 以上 下線→ 3.5 以上

表1 質問項目

【1】	賢い衣服選択とはどのようなものだと思いますか。
【2】	賢くない（好ましくない）衣服選択とはどのようなものだと思いますか。
【3】	1着の服に対して長く着る場合、どのくらいの期間が長いと感じますか。
【4】	「長く着られる服」とはどのようなものだと思いますか。
【5】	SDGs に配慮した衣服選択を行っていますか。
【6】	なぜ SDGs に配慮した消費行動を行っているのですか。
【7】	【6】 【5】 で「いいえ」と回答した方に質問です。 なぜ SDGs に配慮した衣服選択を行っていないのですか。
【8】	育った環境（衣生活）が自分の衣生活にどのような影響を及ぼしていますか。
【9】	家庭科の衣服分野の授業で学んだことをどのくらい覚えていますか。
【10】	家庭科教育の衣服分野をかけて不足していると思う知識・内容はなんですか。
【11】	家庭科の衣服分野で今、知りたい内容はなんですか。
【12】	家庭科の衣服分野で学んだことが今の衣生活にどのように影響していますか。

表2 本調査質問項目

番号	項目				
	1-1	年齢	性別	性別	性別
①	1-2	性別	性別	性別	性別
②	1-3	衣服の持続可能性について意識する	衣服の持続可能性について意識する	衣服の持続可能性について意識する	衣服の持続可能性について意識する
	1-4	環境にやさしい素材の衣服について意識する	環境にやさしい素材の衣服について意識する	環境にやさしい素材の衣服について意識する	環境にやさしい素材の衣服について意識する
	1-5	リサイクル可能な製品について意識する	リサイクル可能な製品について意識する	リサイクル可能な製品について意識する	リサイクル可能な製品について意識する
	1-6	フェアトレードや労働条件を意識する	フェアトレードや労働条件を意識する	フェアトレードや労働条件を意識する	フェアトレードや労働条件を意識する
	1-7	環境への影響を最小限に抑える意識する	環境への影響を最小限に抑える意識する	環境への影響を最小限に抑える意識する	環境への影響を最小限に抑える意識する
③	1-8	服を長く着るために品質を重視する	服を長く着るために品質を重視する	服を長く着るために品質を重視する	服を長く着るために品質を重視する
	1-9	服を長く着るために形を重視する	服を長く着るために形を重視する	服を長く着るために形を重視する	服を長く着るために形を重視する
	1-10	服を長く着るために素材を重視する	服を長く着るために素材を重視する	服を長く着るために素材を重視する	服を長く着るために素材を重視する
	1-11	服を長く着るために個性を重視する	服を長く着るために個性を重視する	服を長く着るために個性を重視する	服を長く着るために個性を重視する
	1-12	服を長く着るためにブランドを重視する	服を長く着るためにブランドを重視する	服を長く着るためにブランドを重視する	服を長く着るためにブランドを重視する
	1-13	服を長く着るために似合い度を重視する	服を長く着るために似合い度を重視する	服を長く着るために似合い度を重視する	服を長く着るために似合い度を重視する
	1-14	服を長く着るために価格を重視する	服を長く着るために価格を重視する	服を長く着るために価格を重視する	服を長く着るために価格を重視する
	1-15	服を長く着るために色を重視する	服を長く着るために色を重視する	服を長く着るために色を重視する	服を長く着るために色を重視する
④	1-16	自分に似合う服を購入する	自分に似合う服を購入する	自分に似合う服を購入する	自分に似合う服を購入する
⑤	1-17	男性的な服を好み女性的な服を好む	男性的な服を好み女性的な服を好む	男性的な服を好み女性的な服を好む	男性的な服を好み女性的な服を好む
	1-18	地味な服を好み派手な服を好む	地味な服を好み派手な服を好む	地味な服を好み派手な服を好む	地味な服を好み派手な服を好む
	1-19	子供っぽい服を好み大人っぽい服を好む	子供っぽい服を好み大人っぽい服を好む	子供っぽい服を好み大人っぽい服を好む	子供っぽい服を好み大人っぽい服を好む
	1-20	寒色の服を好み暖色の服を好む	寒色の服を好み暖色の服を好む	寒色の服を好み暖色の服を好む	寒色の服を好み暖色の服を好む
	1-21	暗い服を好み明るい服を好む	暗い服を好み明るい服を好む	暗い服を好み明るい服を好む	暗い服を好み明るい服を好む
	1-22	カジュアルな服を好みフォーマルな服を好む	カジュアルな服を好みフォーマルな服を好む	カジュアルな服を好みフォーマルな服を好む	カジュアルな服を好みフォーマルな服を好む
	1-23	くすんだ服を好み鮮やかな服を好む	くすんだ服を好み鮮やかな服を好む	くすんだ服を好み鮮やかな服を好む	くすんだ服を好み鮮やかな服を好む
	1-24	かわいい服を好みやわらかい服を好む	かわいい服を好みやわらかい服を好む	かわいい服を好みやわらかい服を好む	かわいい服を好みやわらかい服を好む
	1-25	下品な服を好み上品な服を好む	下品な服を好み上品な服を好む	下品な服を好み上品な服を好む	下品な服を好み上品な服を好む
⑥	1-26	長持ちする衣服の素材について知識がある	長持ちする衣服の素材について知識がある	長持ちする衣服の素材について知識がある	長持ちする衣服の素材について知識がある
	1-27	長持ちする衣服の製法について知識がある	長持ちする衣服の製法について知識がある	長持ちする衣服の製法について知識がある	長持ちする衣服の製法について知識がある
⑦	1-28	どのくらいの期間で「長持ち」といえるか	どのくらいの期間で「長持ち」といえるか	どのくらいの期間で「長持ち」といえるか	どのくらいの期間で「長持ち」といえるか
⑧	1-29	質の高い服に「素材」は重要か	質の高い服に「素材」は重要か	質の高い服に「素材」は重要か	質の高い服に「素材」は重要か
	1-30	質の高い服に「価格」は重要か	質の高い服に「価格」は重要か	質の高い服に「価格」は重要か	質の高い服に「価格」は重要か
	1-31	質の高い服に「機能性」は重要か	質の高い服に「機能性」は重要か	質の高い服に「機能性」は重要か	質の高い服に「機能性」は重要か
	1-32	質の高い服に「デザイン性」は重要か	質の高い服に「デザイン性」は重要か	質の高い服に「デザイン性」は重要か	質の高い服に「デザイン性」は重要か
⑨	1-33	衣服の実用性を意識している	衣服の実用性を意識している	衣服の実用性を意識している	衣服の実用性を意識している
	1-34	衣服のコストパフォーマンスを意識している	衣服のコストパフォーマンスを意識している	衣服のコストパフォーマンスを意識している	衣服のコストパフォーマンスを意識している
	1-35	トレンドの流れやすさ	トレンドの流れやすさ	トレンドの流れやすさ	トレンドの流れやすさ
	1-36	自分自身にあった衣服を意識して購入する	自分自身にあった衣服を意識して購入		

(2) 因子分析による検討

全項目についての因子分析（最尤法、プロマックス回転）の結果を示す。因子負荷量と各因子の特徴から命名した。今回は衣服に対する購入時の意識を構成する要因を見出すため、アンケートに回答した100名のその結果を用いて因子分析を行った。固有値1以上の因子が7つ認められ、累積寄与率は43.81%を示した。

因子1は、全体的に環境についての因子負荷量が高いことから第1因子を「環境への配慮」の因子と命名した。環境への配慮因子の適合度が高いと言える。

因子2は、衣服購入する際に自分自身の似合い度や上品な服を好むなど衣服への関心に関する項目である。質の高い素材や機能性を重視し、自身に似合う服を選ぶことから、第2因子を「服に対するこだわり」と命名した。

因子3は、全て色彩の印象が多く含まれる項目である。中でも、明るく暖かい印象の鮮やかな衣服を好む因子負荷量が高いことから、第3因子を「色彩への関心」と命名した。

因子4は、衣服を長持ちさせるために重視するのか、どれほど知識があるのかで高い因子負荷量を示したことから、第4因子を「持続可能性」と命名した。

因子5は、服を長く着るために「価格」「ブランド」「個性」をひとまとめとし、質の高い服に「デザイン性」と「価格」が挙げられている。見た目のイメージである「デザイン性」を重視していることから、第5因子を「デザイン性」と命名した。

因子6は、見た目にこだわらず衣服の機能性について重視していることから、第6因子を「実用性」と命名した。

因子7は、価格やデザイン性などが外からの見た目ではなく、服そのものの品質を意識していることから、第7因子を「品質」と命名した。

(3) クラスタ分析による検討

先述した表4の7つの因子得点を用いてWard法によるクラスタ分析を行った結果、4つのクラスタに分類された。

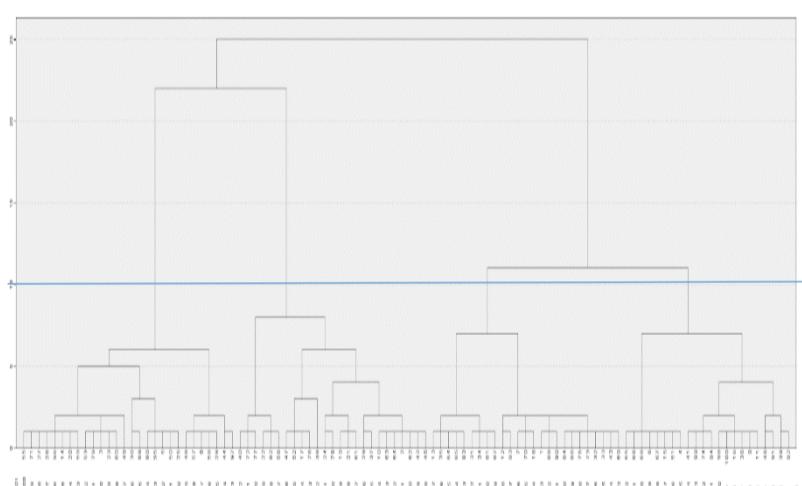


図1 クラスタ分析によるデンドログラム

項目	人数	各因子得点の平均値・標準偏差											
		第1因子 環境への配慮	第2因子 服に対するこだわり	第3因子 色彩への関心	第4因子 持続可能性	第5因子 デザイン性	第6因子 実用性	第7因子 品質					
クラスタ1 デザイン性を重視するグループ	n=25	平均値 -0.74	標準偏差 0.45	平均値 -0.19	標準偏差 0.94	平均値 -0.77	標準偏差 0.58	平均値 0.84	標準偏差 0.58	0.27	0.34		
		標準偏差 0.45		標準偏差 0.94		標準偏差 0.58		標準偏差 0.58		0.69	0.5		
クラスタ2 品質を重視するグループ	n=25	平均値 0.37	標準偏差 0.92	平均値 -0.41	標準偏差 0.95	平均値 -0.19	標準偏差 0.81	平均値 -0.18	標準偏差 0.83	-1.02	-0.94	0.44	
		標準偏差 0.92		標準偏差 0.95		標準偏差 0.81		標準偏差 0.83		0.56	0.91	0.95	
クラスタ3 持続性と環境問題を意識するグループ	n=28	平均値 0.57	標準偏差 0.9	平均値 0.27	標準偏差 0.68	平均値 1.19	標準偏差 0.61	平均値 0.62	標準偏差 0.45	0.13	0.35	-0.03	
		標準偏差 0.9		標準偏差 0.68		標準偏差 0.61		標準偏差 0.45		0.45	0.61	0.98	
クラスタ4 実用性と機能性を重視するグループ	n=22	平均値 -0.31	標準偏差 0.53	平均値 0.34	標準偏差 0.8	平均値 -0.43	標準偏差 0.42	平均値 0.22	標準偏差 0.8	0.04	0.31	-0.86	
		標準偏差 0.53		標準偏差 0.8		標準偏差 0.42		標準偏差 0.8		0.74	0.63	0.94	
累積寄与率 (%)		5.266	14.29	23.457	30.915	36.964	40.497	43.815					
寄与率 (%)		5.266	9.024	9.167	7.459	6.049	3.532	3.319					
固有値		1.527	2.617	2.658	2.163	1.754	1.024	0.962					

表5 各クラスタの因子得点の平均値・標準偏差

クラスタ1では、衣服の持続可能性や環境問題意識せず、自分の好きなデザインの服という考えのみで衣服選択をする傾向がある。

クラスタ2では、着られなくなった服の後始末の事も考えながら、衣服を長持ちさせるために品質や素材にこだわる傾向がある。

クラスタ3では、持続性を考慮した色の服を選ぶ人が多く、環境問題の背景を意識しながら衣服を選ぶ傾向がある。

クラスタ4では、品質や色、環境問題は意識せず、衣服を長く着るために実用性やコストパフォーマンスを考え購入する傾向がある。

以上の分析の結果からクラスタ1「デザイン性を重視するグループ」、クラスタ2「品質を重視するグループ」、クラスタ3「持続性と環境問題を意識するグループ」、クラスタ4「実用性と機能性を重視するグループ」の4つに分けられた。

5. 総括

本研究では、10代から50代の男性12人、女性88人計100名を対象に、5段階評価とSD法によるアンケート調査を行った。全項目について因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行った結果、固有値1以上の7因子が認められ、累積寄与率は43.81%であった。衣服の持続可能性について、因子得点を基にクラスタ分析を行った結果、4つのクラスタが明確になった。現代の消費者がファッショントリニティに求めるものが単なる実用性だけでなく、自己表現や価値観の表現であることを強く示していた。一方で、色彩を決め手とする人や、環境問題に配慮した衣服選択をする人が多いことが捉えられた。消費者が自分の価値観や生活スタイルを反映した服選びをしたいという願望が高まっていることを示していると考えられた。

6. 引用・参考文献

- 環境省“これからのファッショントリニティを実現するための行動指針”https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/ (2023/12/2)
- ファッショントリニティに私たちはどう立ち向かうのか.<https://note.com/forfashionfuture/n/n6482f179a9a9> (2023/12/4)